

第2回

日時	平成17年9月7日(水) 15:00~16:30	
場所	奈良病院会議室	
出席者	(委員)	吉田委員(委員長)、国分委員、桜井委員、西委員、谷田委員、佐野委員、藤尾委員、菊地委員、上森委員、三上委員(全員出席)
	(事務局)	瓜生医大・病院課長、中川課長補佐、他課員
内容	県立病院の課題と今後の役割、見直しの方向性についての意見交換	

主な発言

- ・公立病院の医療面以外の地域への人材の輩出、医療施策の提案、新しい医療分野の開拓など多面的な役割や機能についての議論もしていくべきでは。
- ・純不採算医療、政策医療を明確化して、そのことを県民に説明し、県民が認識できるような情報を提供していくべき。不採算医療にかかる経費の厳密な算定については、現在の紙ベースのデータ処理では難しく、今後IT化を進めることが必要。ただし、政策医療を継続するには、その収支を一定のルールで算定したうえでの予算措置は必要である。
- ・政策医療として不採算となる医療を続けるためにも、ある程度採算のとれる医療も必要ではないか。
- ・今後も委託業務の拡大は必要であると思うが、第三者による業務執行状況の質的なチェックが必要ではないか。外部委託を行っている業務は直接患者さんと接する病院のイメージに関わる部分が多い。
- ・医師、看護師などの職種の民間との人材交流がもっと進めば、病病連携・病診連携が深まるのではないか。
- ・県立病院間でのマンパワーの有効活用が可能となるような制度、システムをつくる必要があるのではないか。
- ・国立大学が先に独立行政法人化されたが、外部評価や経営についても真剣に考えるようになったと聞いている。計画に対する責任も明確になり、事業全般の見直しにもつながり、本当にやるべきことが明らかになってくることが独立行政法人化のメリットではと思う。
- ・経営形態の検討については、各方面の専門家の意見を聞いて、慎重に検討を重ね、十分に議論を尽くすことが大事である。